

教宣 せぶん

長野・新潟支店で社前行動

首都分会や当分会の千葉の仲間の応援のもと、新潟・長野両支店で社前行動、ならびに繁華街でのビラ配り、街宣行動を行いました。首都圏と違い、地方都市では、通行人の絶対数は少ないものの、ビラを受け取ってくれる人の確率は断然高く、県民性や地域性を感じる社前行動・街宣行動になりました。信号待ちで停車中の運転手の方もビラを差し出すとほとんどが受け取ってくれたり、バイクや自転車を停めてわざわざビラを要求する人がいたり、損保のリーディングカンパニーの無法な行為を示すビラや宣伝に感心が高かったようです。長野支店では、スピーカーから発せられる抗議の声を聞きつけ、地元の有力紙である信濃毎日新聞社の記者が取材に訪れました。要請団と会社のやりとりを写真に収め、今回の私たちのたたかひの経緯を熱心にメモしていきました。「いまNTTや郵政公社でも労働問題が起きている。すぐには記事にはならないと思いますが」と言って、私たちの差し出す「資料」を大切そうに抱えていきました。

要請団と対した会社側の対応は、「マニュアル通り」のものでしたが、旧日動社出身の会社側の対応責任者の性格を良く知るある従業員は「自分の判断で社内に入れないと言っていたが、彼は自分の判断で決められるような人間ではない。逐一指示を仰ぎ、指示を仰いだ日時や指示内容、誰に指示を仰いだかを明確にメモしているタイプ。決して自分の判断ではない」と断言していました。また、今回の社前行動に全面的に御協力いただいた全労連の方も、「このような冷たい対応をする会社はない」と言っておられました。

同じ目的にむかって、仲間がともに汗を流すことで組織の団結や絆はさらに強まります。福岡や関西での要請行動は風雨が激しい中行われましたし、今回の新潟・長野は夏を思わせるような強い日差しの中で行われました。ともに真剣に、そしてまじめに、整斉と取り組みを行っています。論議や親睦会で仲間同士の懇親を深めることもありますが、言葉を交さなくとも、共に汗を流し、体を動かし、スピーカーマイクに向かって声を発することで、懇親を深めることができます。共通の目的に対し、私たちができることはすべて取り組み、狡猾な東海経営を追いつめていしましょう。「5月」を過ぎ、たたかひは佳境に入っていきます。たたかひは「理屈」ではなく、「生きざま」になってきたと感じます。